

【資料②】

キャリア教育プログラム 参考資料 (平成 25 ～ 28 年度)

1 これまでの「ミッション」及び協力企業・団体

(1) これまでの「解決ミッション」

【25年度】

- (A) 「フレビアカフェの利用者アップを目指せ！」  
(NPO法人可児市国際交流協会 (フレビア))
- (B) 「外国人住民も利用しやすいコンビニを目指せ！」 (ミニストップ可児広見5丁目店)
- (C) 「お米作りの楽しさを多くの人に伝えよ！」  
(農事組合法人福地ハイランズ)
- (D) 「高校生のCTKファンを増やせ！」  
(株式会社ケーブルテレビ可児)

【26年度】

- (A) 「知名度アップを図り、若者たちに『FMらら』を聞いてもらう方法を考えよ！」  
(FMラインウェーブ株式会社 (FMらら))
- (B) 「中学校を10倍楽しくする方法を考えよ！」 (御嵩町立向陽中学校)
- (C) 「(株)福地ハイランズ『商品開発部』としてウケる『餅』の新商品を開発せよ！」  
(農業生産法人 株式会社福地ハイランズ)
- (D) 「御嵩町キャラクター ミーモくんのLINEスタンプの売り上げを伸ばせ！」 (御嵩町)

【27年度】

- (A) 「『私を“フレビア”に連れて行って』と言われたら… ～フレビアへの案内方法を考えよ！～」  
(NPO法人可児市国際交流協会 (フレビア))
- (B) 「みんなの思い出に残る生前葬を考えよ！」 (株式会社濃飛葬祭)
- (C) 「外国人観光客おもてなしプロジェクト ～御嵩町の魅力を外国人観光客にわかりやすく伝えよ！～」 (御嵩町)
- (D) 「若者の来店を増やせ！」 (洋服の青山 可児店)

【28年度】

- (A) 「『私を“フレビア”に連れて行って』と言われたら… ～フレビアへの案内方法を考えよ！～」  
(NPO法人可児市国際交流協会 (フレビア))
- (B) 「心に残る誕生日会を考えよ！」 (社会福祉法人村の木清福会 ひろみ保育園)
- (C) 「車屋で出来る最高のサプライズを考えよ！」 (株式会社ファミリーカーショップ)
- (D) 「ふれあい予約バス観光周遊プロジェクト ～ふれあい予約バスを利用した観光モデルコースを考えよ！～」 (御嵩町)

## (2) これまでの「探検ミッション」訪問先

「御嵩町内の企業で働いている人の楽しさや やりがい取材せよ！」

	25年度	26年度	27年度	28年度
東海化成工業株式会社（御嵩町御嵩）	○	○	○	○
東濃信用金庫御嵩支店（御嵩町中）	○	○	○	○
株式会社原業務店（御嵩町中）	○	○		
株式会社錦幸社（御嵩町御嵩）	○			
丸井自動車工場（御嵩町御嵩）		○	○	
株式会社ツル夕製作所（御嵩町御嵩）			○	○
有限会社肉のキング（御嵩町中）				○

## 2 取組に対する生徒の自己評価

	25年度	26年度	27年度	28年度	平均
取組に対する自己評価(100点換算)	79.7	78.8	81.0	76.1	78.9
(うち国際クラスの生徒の評価)	83.1	93.6	78.0	60.5	78.8

※年度により変動はあるが、自らの取組におよそ80点の評価をしている。

## 3 生徒の感想

### 【全般】

- ・楽しかった。
- ・アイデアを考えるのがおもしろかった。
- ・もう一度やりたい。
- ・劇を行っているグループやとても説明が上手なグループがあり、驚いた。
- ・違うグループの発表を聞いて、おもしろいと思ったり、なるほどと思ったことがあった。
- ・御嵩町のいろいろな名所をまわって、実際に自分の目で見ることができた。

### 【コミュニケーション】

- ・ふだん全くしゃべらない人と交流できた。
- ・いろんな人に出会って、仲良くなって、いい経験になった。
- ・大学生たちが優しく教えてくれた。

### 【チームワーク・責任感】

- ・(リーダーだったが) みんなが真剣に仕事をやってくれたり、いろいろ考えてくれた。
- ・グループのみんなと協力できた。
- ・自分なりにどうしたらいいかなどを考えることができた。
- ・みんなの発表を見ることができよかった。

### 【充実感・達成感・満足感】

- ・あまり人前で発表するのは苦手だが、自分なりに大きな声で発表できた。
- ・発表はすごく緊張したけど、皆でいろいろ調べて協力して発表することができてよかった。
- ・こういう経験は初めてだったけれど、自分に必要な力をさらに引き出せたと思うので、これを日常生活にも生かしていきたい。
- ・決められた時間でいろいろ考えて、最後まで作り上げられたのがうれしい。
- ・自分たちががんばってつくったものが形になり、成果が出たのでよかった。
- ・想像していたよりも面白くてよかった。
- ・発表の力が上がった。
- ・最初は面倒くさかったし、やりたくなかったが、やっていると意外に楽しかったのでよかった。

### 【キャリア発達】

- ・「何のために働くか」がわかった。
- ・企業の方に直接話を聞くことができたのがよかった。
- ・今後自分が働くための実感を得た。自分が今、やらなくてはいけないことをやろうと決心がついた。
- ・仕事のアイデアを出すのがどれだけ難しいか、とてもわかった。
- ・仕事はつらいものだと思っていたが、インタビューするうちに、仕事の楽しさもわかり、仕事に対する印象が変わった
- ・長く生きている人はいろいろな経験をしているので、その人の言葉はとても自分に響くものがあつた。
- ・たくさんの仕事について、いろいろと話を聞くことができた。
- ・就職した先輩の話を直接聞くことができてよかった。
- ・実際にその現場に見に行ったり、話を聞いてとても勉強になった。
- ・最初はやる気が起きなかったが、企業に取材に行って話を聞いてから、みんなにこの企業のことを伝えたいと思い始め、調べたりすることが楽しくなった。
- ・実際に外に出て、自分の知らないことを発見できた。
- ・大変なことや楽しいこと、責任感やいろいろなことを大人になるにつれ、背負っていくことがわかった。

### 【反省・改善点】

- ・リーダーとしてもう少しグループをまとめる力をつける。
- ・もう少しコミュニケーション力をつける。
- ・達成感はあつたけど、完成度は低かつた。

## 4 協力企業・団体等からのご意見、ご感想

- ・聞く姿勢がよかった。熱意があった。びっくりするぐらい、昨年よりもよくなった。
- ・高校生らしい意見だった。想像を超える意見もあった。他人の気持ちを思いやる見方があってよかった。
- ・昨年入社した（本校）卒業生に話をさせたが、彼女らにとって勉強になった気がする。
- ・可能な限り、職場のスタッフをもっとからませればよかった。スタッフも刺激を受けたことと思う。
- ・これまでの学び（小・中学校）の中で、（こうした発表に）参加してこなかった子どもたちが、今日は主役になった。
- ・若い人の声が聞いてよかった。
- ・楽しい時間を過ごさせてもらった。
- ・外国人生徒の日本語の堪能さにびっくりした。こうした(外国人生徒と日本人生徒の)交流ができるのは東濃高校の特長である。
- ・当社も外国人従業員が多い。コミュニケーションをうまくとり、安全や品質の大切さをいかに伝えるかが課題である。

## 5 協働NPO、学生スタッフ等からのご意見、ご感想

- ・成長が早く、「意外にできる子たち」だったので、それを本人たちに自覚させたい。これからの時間が大切だと思う。
- ・アイデアを出しても自己否定してしまうところが残念。

### 【学生スタッフ】

- ・すごく真剣な顔をして（生徒は）取り組んでいた。もっと長い期間関わればよかった。
- ・3年間参加する中で、だんだん自発的になっていくのを見てよかった。自分もこの地域の知らないことを知ることができた。
- ・論理的にまとめられる可能性のある生徒が多い。したい仕事がわからなかったり、バイトのつらい経験を、自分とどう重ねるかを考えさせられるとよかった。

## 6 本校教員からの意見、感想

### 【生徒の取組状況について】

- ・すべてのグループとは言い切れないが、生徒同士で話し合う姿が多く見られた。リーダーもよくやっていた。
- ・放課後残って完成させる姿も見られたこともよかった。
- ・発表会に向けて生徒なりに工夫して取り組んでいた。

#### 【協力企業・団体について】

- ・積極的に声をかけていただいて、とても雰囲気良かった。
- ・非常に丁寧な対応をしていただき、生徒もリラックスしていた様子。いい経験ができた。

#### 【NPO、学生スタッフとの協働について】

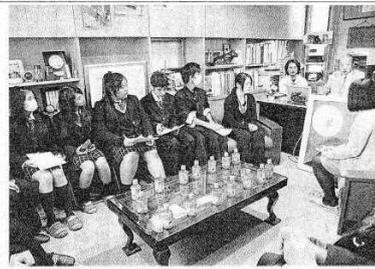
- ・生徒の中に入って行って、個別に対応したり、それぞれに合わせて指導していた。
- ・距離感があったと思うが、年齢が近い学生スタッフとの会話は必要だと思う。新鮮味があってよい。また、教員側も意見を聞きやすい。
- ・教員ではなく、第三者が入ることで生徒の違った一面が見られてよい。
- ・生徒も楽しそうだった。外部の人との関わり方を学べたと思う。

#### 【目的の達成度】

- ・全体を通して、自分たちで工夫してミッションに主体的に取り組んでいた生徒が多かったように思える。
- ・グループ内で話し合ったり、まとめたことを前で発表したりと、コミュニケーション能力は身に付けられていた様子。ミッションクリアまではなかなか具体的な策が出し切れなかった。
- ・大勢の人の前で発表したことで、自信や達成感につながった子もいたと思う。
- ・発表会後の生徒の表情からはある程度の達成感を感じた。
- ・本番に弱い。日頃発表（何でもよい）する機会を多くできればよい。
- ・今までにない視点から地域について考え、自分も何かができるという自信がもてたと思う。

【参考資料・新聞記事】

<25年度>



外国籍生徒も  
キャリア教育

御嵩町の東濃高 地元企業を見学

全校生徒283人のなをして、働く楽しさ、教育を受けるのは全国  
うち、外国籍の生徒がやりがいを学んでい  
約を定める準備中。  
外国籍の生徒は、一  
校司馬御嵩町御嵩 一般的に、就労や進学な  
教育プログラムを受け、自身のキャリア観を  
ている。自分の進路を保持していくとされ、  
っている最中の生徒が、地域社会との接点が少  
地域の企業を見学する。など、どんな企業や仕  
事があるか知らないこ  
とが要因と指摘されて  
いる。  
プログラムは当初、  
愛知淑徳大の小島祥美  
准教授が外国籍の生徒  
を対象に企画。だが同  
じ傾向の課題を日本人  
の生徒も抱えているこ  
とから、全1年生10  
4人に対策を打ち、11  
月21日にスタートし  
た。日本人、外国人の  
生徒が一緒にキャリア

動いていて、話を聞  
く東濃高の生徒は、可  
児御嵩町中、職業生活

インターンに取り組  
むNPO法人「g.n.e  
」岐阜市が協賛。  
6日は、生徒が自動  
車部やサッカー、金  
機関が町の4事業  
所を訪れた。同町中  
の左官業東洋務店  
は、副社長や若手  
社員が仕事の内容や業  
業の課題解決に取り組  
む授業を行った。  
プログラムは13日  
までに計5回の予定。フ  
イリピン出身のサス  
・シーヤさん(15)は  
「仕事はつらいけども  
ある程度、楽しいと分  
かった」と話した。  
(馬田泰州)

2013年12月7日付け 中日新聞



外国人生徒にも配慮

東濃高 1年生に職業意識教育

御嵩町御嵩の東濃高 職業意識教育、教育する。県外国人青少年  
校は1年生を対象に、プログラムを進めてい  
援者連絡会議とも連携  
し、同校に多い外国人  
の生徒にも配慮した内  
容にしている。  
プログラムは十一月  
二十一日から十二月  
三日の間に五日開かれ  
る。1年生百四十人のう  
ち外国籍はブラジル六  
人、フィリピン十三人  
と多いため、連絡会議  
の小島祥美座長(愛知  
淑徳大准教授)から助  
言を受けて進めてい  
る。  
六日は八班に分か  
れ、町内や可児市の事

2013年12月7日付け 岐阜新聞

2013年12月14日付け 朝日新聞

2013年(平成25年)12月14日 土曜日 享月



フィリピン出身の生徒5人は、ケーブルテレビ可児の高校生の  
視聴者を増やすアイデアを話した。御嵩町御嵩の県立東濃高校

地域に生かすよ  
若者のアイデア

御嵩町の県立東濃高校が13日、愛知淑徳大  
の教員らとともに進めたキャリア教育のプロ  
ジェクトの発表会を開いた。東濃高の1年生  
104人が2グループに分かれ、地元NPO  
などが抱える課題の解決策を考えたり、町内  
の企業見学で知った仕事の魅力を発表したり  
した。

課題の解決策・地元企業の魅力発表 東濃高1年生

このプロジェクトは、東濃  
高×地域コラボによる地域活  
性化プロジェクト。愛知淑  
徳大の小島祥美・文学部准教  
授(多文化共生推進)によるキ  
ャリア教育の一環で、「自分  
たちが町で役に立っている存在  
と目標を持つほしい」と始  
めたという。  
生徒らは11月下旬から町内  
4企業を見学し、社長らから  
仕事の魅力を聞いた。また、  
「外国人も利用しやすいコン  
ビニ」や「ケーブルテレビ可  
児の高校生ファンを増やす」  
などをテーマにアイデアを出  
し合ってきた。  
この日は、すべてのグルー  
プが発表し、コンビニに外国  
のお菓子を置くなどの意見  
を作ったりするなどの意見  
を出した。初めて人前で発表  
するという生徒が多かったが、  
ゲストとして招かれた見学先  
企業やNPO関係者からは  
大きな拍手が送られていた。  
東濃高は外国籍の生徒が全  
校の約2割を占める。ブラジ  
ル出身のモラエス・ミカエラ  
さん(15)は「コンビニの店長  
さんと話し、外国人客のこ  
とをよく考えているんだと驚  
れしくなった。学んだことを  
将来にいかしたい」と笑顔で  
話した。  
(安本廣)

### 地元企業の悩み聞こう

東濃高校生  
キャリア教育 社長にインタビュー

御嵩町御嵩の東濃高校前から働く楽しさや学校の1年生114人が、キャリア教育プログラムを受けている。生徒が地域の企業を見学したり企業が抱える問題の解決策を考えて提案した。社会に出る「解決ミッション」と企業を訪問して働く楽しさややりがいを取材にする「探検ミッション」のどちらかを行う。全町内の企業4社を訪れ



原明治社長にインタビューをする生徒たち。御嵩町中、原業務店

7回の日程で、最終回の2月6日には報告会も行う。30日は、同校に「解決ミッション」で課題を依頼する各企業に「仕事をしたい」という思いを伝える。原社長が「新しい施工方法を考えている時が一番楽しい」と答えると、生徒は真剣にメモを取っていた。(鈴木隆宏)

# ミーモくんの動画を

## 販促や商品開発

## 東濃高校生が提案

御嵩町御嵩の東濃高校の1年生が六日、町役場や地域の企業に販売促進や商品開発を提案する発表会を開いた。町が通信アプリLINE(ライン)で販売している「ミーモくん」スタンプの売り上げ増へ、生徒たちがさまざまなアイデアを披露した。(遠藤康訓)

町のキャラクター「ミーモくん」のスタンプは、昨年九月下旬に一セット百円で販売を開始。最初の二カ月間は好調な売れ行きで二万円近くが町の収入になったが、このころは月千円程度に伸び悩んでいる。

### 御嵩町 若い感性で活性化

生徒らは「全身タイツ、ケーキを顔につけるなど、面白い動画をインターネットに流そう」「着ぐるみをいろうんな店に貸し出して知名度アップを図るべきだ」と、若い感性を存分に発揮した。

町担当職員は「ミーモくんの知名度が上がれば、町そのものを知ってもらうことにつながる。動画のアイデアは東濃高生の協力も受けてぜひやってみよう」と応じた。



グループごとに考えたアイデアを発表する生徒たち。御嵩町の東濃高校で

# 外国人に町をどうPR?

## 御嵩・東濃高 アイデア発表会

御嵩町の東濃高校で、一年生が町役場や地元企業にアイデアをプレゼンする発表会が開かれた。外国人に町の魅力を伝える方法などについて斬新な意見が続々と上がった。

同校が二〇二三年度から始めた職業理解の教育プログラム。一年生百十三人が五人前後のグループで、先月から町役場や企業を訪問し、アイデアを練った。発表は、模造紙を使ったり劇を演じたりして提案した。

発表後、町職員や各企業の代表者らによる講評があり、「斬新なアイデアで、将来的に取り入れるかもしれない」などと好意的に評価していた。

### イン報告会



グループでまとめたアイデアを発表する生徒たち＝御嵩町の東濃高で

(篠塚辰徳)

2017年(平成29年)2月8日 水曜日

# 企業の課題、解決策探る

## 東濃キャリア教育 1年生が提案発表



解決策を発表する生徒＝御嵩町御嵩、東濃高校

御嵩町御嵩の東濃高校の全1年生114人が、社会に出る前から働く楽しさややりがいなどを学ぶキャリア教育プログラムを受講した。

2013年度から毎企業の見学や、企業が提案するなどの内容を実施。生徒が地域の抱える問題の解決策を、全7回の日程。今回初めて、キャリア教育事業を行うNPO法人緑塾(可児市土田)が指導などをサポートした。

本年度は1月16日にスタート。生徒は3、6人の24グループに分かれ、各グループが企業の課題解決策を探る「解決ミッション」と企業を訪問して働く楽しさなどを取材する「探検ミッション」のどちらかを行った。

同校で行った最終日の報告会では、グループごとに提案した解決策を発表。生徒は「心に残る誕生日会を考え

よつ」「車屋でできるてもらう」「納車する最高のサプライズを考時に歌を歌う」など「えよ」などの課題に対して「五探しを取り入れ者の前で力強く発表していきまわくわくした。



地域と企業・団体を盛り上げるためのアイデアを発表する生徒たち。御嵩町の東濃高で

## 地元企業盛り上げよう

### 東濃高校生 仕事学んだ成果発表

御嵩町の東濃高校の1年生百十四人が地域で働く人たちの交流を通し、仕事の楽しさややりがいを学んだプログラムの報告会が六日、同校で開かれた。

プログラムは先月十六日スタート。地域の四企業・団体が、解決したい課題を高校生に提示した。可児市国際交流協会は「可児市多文化共生センター」「レヒア」への案内方法を考えよ、「ひろみ保育園」は「心に残る誕生日会を考えよ」「ファミリーカーショップは「車屋でできる最高のサプライズを考えよ」、町

は「ふれあい予約バス」を利用した観光モデルコースを考えよ」の課題。このほか、町内四企業の職場を見学し、「働く楽しさ・やりがい」を取材する目標も用意された。

生徒は五人前後の班に分かれ、校内で各企業・団体の担当者から話を聞いたたり、企業や現地を訪ねたりして取材。模造紙などに解決策や成果をまとめた。報告会では、車を購入してくれた人らに歌を贈る案、誕生日会で園児が親に手紙を渡すアイデア、町内の新観光プラン、企業の事業内容などを発表。発表にクイズや劇を取り入れる班もあった。

アプリでフレシアのイベントをPRした

御嵩町御嵩の東濃高校の1年生百十四人が地域で働く人たちの交流を通し、仕事の楽しさややりがいを学んだプログラムの報告会が六日、同校で開かれた。

プログラムは先月十六日スタート。地域の四企業・団体が、解決したい課題を高校生に提示した。可児市国際交流協会は「可児市多文化共生センター」「レヒア」への案内方法を考えよ、「ひろみ保育園」は「心に残る誕生日会を考えよ」「ファミリーカーショップは「車屋でできる最高のサプライズを考えよ」、町

は「ふれあい予約バス」を利用した観光モデルコースを考えよ」の課題。このほか、町内四企業の職場を見学し、「働く楽しさ・やりがい」を取材する目標も用意された。

生徒は五人前後の班に分かれ、校内で各企業・団体の担当者から話を聞いたたり、企業や現地を訪ねたりして取材。模造紙などに解決策や成果をまとめた。報告会では、車を購入してくれた人らに歌を贈る案、誕生日会で園児が親に手紙を渡すアイデア、町内の新観光プラン、企業の事業内容などを発表。発表にクイズや劇を取り入れる班もあった。

アプリでフレシアのイベントをPRした